

『集韻』「俗作某非是」⁽⁰⁾

住谷芳幸

岐阜女子大学 文化創造学部

(2016年11月9日受理)

A Study about the Variant Characters in *Jiyun*

Department of Cultural Development, Faculty of Cultural Development,
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

SUMIYA Yoshiyuki

(Received November 9, 2016)

1.

宝元二年(1039)成立⁽¹⁾の『集韻』は、大中祥符元年(1008)成立の『大宋重修広韻』(以下『広韻』とする)を改訂・増補した韻書とされる。また、その収録字数は、序文で26,194字とする『広韻』から、同じく序文で53,525字とする『集韻』へと大幅に増補されている。この『広韻』から『集韻』への収録文字の増補の様相についてはある程度明らかになっている⁽²⁾。

また、『広韻』から『集韻』への改訂にあたって、『広韻』には収録されてはいるものの、『集韻』には収録されてはいない文字もある。その削除された文字を検討することは、増補された文字を検討することと同様に、『広韻』から『集韻』への改訂の方針を知る上で重要なことであろう。しかしながら、そのような削除された文字についての検討はなされていないようである。もちろん、これは『広韻』26,000余の文字と『集韻』53,000余の文字とを対比させるといふ膨大な作業が必要なことも原因であろう⁽³⁾。

ところで、『集韻』の注記中には、「俗作某非是」「俗从某非是」として扱われている文字が、161例ある。これらは『集韻』巻頭の「韻例」で、「凡流俗用字附意生文既無可取徒亂眞僞今於正文之左直釋曰俗作某非是」(4, 10)⁽⁴⁾とするもので、たとえば次のような注記がそれである。

「關○<…俗作関非是…>」(平声刪韻132, 10)

この「俗作関非是」とされた「関」は、『集韻』に採録された文字ではあるものの、収録された文字とはいえないであろう。この「關」および「関」について、『広韻』では以下のように扱われている。

「關<…>関<俗>」(平声刪韻127, 6)⁽⁵⁾

『集韻』で「非是」として扱われている「関」は、『広韻』では「俗」として収録されているのである。ここから『広韻』と『集韻』とで、文字収録の方針に違いのあったことがみてとれる。

ところで、この「俗作某非是」等の注記に対し、趙振鐸『集韻研究』⁽⁶⁾では「但是、《集韻》對一些俗字的批評，也有失之偏頗的地方。

有許多俗字早就在羣衆中流傳開了，有相當的羣衆基礎，文獻裏面也屢屢出現。不承認它是不妥當的。」(p 49)とするが、必ずしも適切な評価とは思われない。辞書(字書)編纂の立場として、記述的な立場と規範的な立場とが存在する。記述的立場であれば、一般に使用されていることが確認されている(「俗作」)文字は収録すべきであり、規範的立場であれば、誤りであることが確実な(「非是」)文字は収録する必要はない。ところが上記の「關〇<…俗作関非是…>」という『集韻』の注記は、

- 1) 一般に使用されていることを確認し表示する(「俗作関」)。
- 2) それが誤りであることを指摘する(「非是」)。

という注記となっており、そこには何等かの事情があったものと想像されるからである。

ともあれ、『集韻』の「俗作某非是」等の注記は、『広韻』から『集韻』へと改訂・増補される際の、文字収録の方針の違いを知るための糸口になるものと思われる。

2.

1節での観点から、『集韻』で「俗作某非是」等とされた文字と『広韻』での収録文字とを対比したところ、次のような対応関係が見出せた。

- ①『集韻』「非是」が『広韻』の「俗」に対応する例。 69例
- ②『集韻』「非是」が『広韻』の「俗」以外に対応する例。 24例
- ③『集韻』「非是」が『広韻』の類似する字体の文字に対応する例。 6例
- ④『集韻』「非是」が『広韻』に対応のない例。 62例

以下、煩雑になるもののこれら全例を示す。ただし、論旨に関わらない範囲で通用の字体

に変更した文字もある。なお、すべての文字を表示したものをインターネット上に公開する予定である。

2.1

- ①『集韻』「非是」が『広韻』の「俗」に対応する例。

平声

東韻

- 1) 忽尙<…古作尙俗作尙非是…> (8, 10)
⇒広韻, 忽<…>尙<俗> (31, 3)⁷⁾
- 2) 叢<…俗作藁非是…> (9, 9)
⇒広韻, 叢<…>藁<俗> (31, 1)

江韻

- 3) 窗窓〇〇<…俗作窓非是…> (22, 4)
⇒広韻, 窗<…>〇<…>窓<上同>
窓<俗> (39, 4)

支韻

- 4) 〇〇墮<…俗作墮非是…> (33, 5)
⇒広韻, 〇<…>墮<上同>墮<俗>
(42, 7)

脂韻

- 5) 夔<…俗作 A 非是> (43, 11)
⇒広韻, 夔<…>A<俗> (56, 7)

魚韻

- 6) 於〇<…俗作 B 非是…> (56, 10)
⇒広韻, 於<…>B<俗> (69, 8)

虞韻

- 7) 虞〇呉<…俗作 C 非是…> (64, 2)
⇒広韻, 虞<…俗作 C…>C<俗見上注> (72, 3)
- 8) 須〇<…俗作鬚非是…> (69, 13)
⇒広韻, 須<…俗作鬚…>鬚<俗>
(75, 6)

- 9) 趨〇<…俗作趨非是…> (70, 4)
⇒広韻, 趨<…>趨<俗…> (77, 6)

模韻

- 10) 圖○<…俗作囑非是> (76, 7)
⇒広韻, 圖<…>囑<俗…> (82, 8)
- 11) 盧○<…俗作 D 非是…> (76, 13)
⇒広韻, 盧<…俗作 D…> (84, 2)

齊韻

- 12) ○齋壺○<…俗作 E 非是> (82, 1)
⇒広韻, ○<…>齋<上 同>E<E 菜俗> (91, 2)
- 13) 氏<…俗作互非是…> (82, 4)
⇒広韻, 低<…俗作 互…>氏<…>
(87, 6)
⇒広韻脂韻, 祇<…俗從互餘同> (51, 1)
- 14) 醯○<…俗作 F 非是…> (85, 3)
⇒広韻, 醯<…俗作 F…> (90, 1)
- 15) 攜<…俗作携非是…> (87, 3)
⇒広韻, 攜<…>携<俗> (92, 4)

哈韻

- 16) 顛<……俗从肉非是> (100, 4)
⇒広韻, 顛<…俗又作腮> (100, 10)

真韻

- 17) 眞○<…俗作真非是…> (101, 2)
⇒広韻, 眞<…俗作真…> (101, 4)
- 18) 珍○<…俗作玠非是…> (104, 12)
⇒広韻, 珍<…俗作玠…> (103, 10)

欣韻

- 19) 筋○臄○肋<…俗作 G 非是> (115, 11)
⇒広韻, 筋<…>G<俗> (112, 8)

陽韻

- 20) 莊○<…俗作 H 非是> (191, 1)
⇒広韻, 莊<…>H<俗>

寒韻

- 21) 餐瀆噴<…俗作滄非是…> (126, 4)
⇒広韻, 餐<…>滄<上 同 俗作滄>
(121, 10)

桓韻

- 22) 拌<…俗作 I 非是> (129, 11)
⇒広韻, 拌<…俗作 I> (127, 3)

刪韻

- 23) 關○<…俗作関非是…> (132, 10)
⇒広韻, 關<…>関<俗> (127, 6)

僊韻

- 24) 然○<…俗作燃非是…> (145, 5)
⇒広韻仙韻, 然<…俗作燃…>燃<俗見上注> (137, 5)
- 25) ○<…俗作 J 非是> (147, 3)
⇒広韻仙韻, 愆<…>○<古文>○<籀文>J<俗> (142, 7)

蕭韻

- 26) 刁<…俗作刀非是> (153, 2)
⇒広韻, 刁<…俗作刀> (144, 6)

麻韻

- 27) 邪耶<…俗从王爲琅 K 非是…>
(183, 3)
⇒広韻, 邪<琅邪郡名俗作耶 K…>耶
K<並見上注> (165, 3)

唐韻

- 28) 琅○<…俗作瑯非是> (195, 2)
⇒広韻, 琅<…>瑯<…俗作瑯 K (179, 5)
- 29) 岡<…俗作崗垠非是…> (197, 7)
⇒広韻, 岡<…>崗<又作垠並俗>
(180, 4)

蒸韻

- 30) 稱<…俗作秤非是…> (219, 5)
⇒広韻, 稱<…> (200, 6)
⇒広韻證韻, 稱<…俗作秤…>秤<俗>
> (433, 6)

登韻

- 31) 稜楞<…俗作稜非是…> (222, 6)
⇒広韻, 楞<…>稜<上同…>稜<俗>
> (201, 2)

尤韻

- 32) 搗<…俗作 L 非是…> (233, 2)

⇒広韻, 搗<…>L<俗餘倣此>(208, 9)

侵韻

33) 沈湛<…俗作沉非是…>(243, 6)
⇒広韻, 沈<…>沉<俗>(217, 9)

鹽韻

34) 鹽○○<…俗作塩非是…>(250, 12)
⇒広韻, 鹽<…>塩<俗>(225, 3)
35) 詹<…俗作 M 非是…>(253, 2)
⇒広韻, 詹<…俗作 M…>(226, 4)

咸韻

36) 鹹<…俗从西非是>(257, 7)
⇒広韻, 鹹<…>鹹<俗>(229, 6)

上声

曷韻

37) 豎○○<…俗作竖非是…>(294, 4)
⇒広韻曷韻, 豎<…>豎<俗>(263, 1)

軫韻

38) 軫○<…俗作 N 非是…>(308, 69)
(Nは[車尔]⁽⁸⁾)
⇒広韻, 軫<…俗從尔餘同…>(275, 2)

準韻

39) 準○<…俗作准非是…>(309, 4)
⇒広韻, 準<…>准<俗>(277, 6)

緩韻

40) 款○<…俗作欸非是…>(321, 10)
⇒広韻, 款<…>○<上同>欸<俗>(285, 10)

41) 館<…俗作館非是>(322, 2)
⇒広韻換韻, 館<…俗作館>(403, 1)

42) 斷○○○<…俗作断非是>(324, 2)
⇒広韻, 斷<…俗作○断…>(285, 4)

銑韻

43) 繭○親<…俗作璽非是…>(332, 4)
⇒広韻, 繭<…>親<古文>璽<俗>(288, 10)

羶韻

44) 前齊<…俗作剪非是>(334, 1)
⇒広韻羶韻, 剪<…俗作剪…>剪<俗>(292, 2)

皓韻

45) ○嫂<…俗从更非是…>(349, 13)
⇒広韻, ○<…>嫂<上同>○<俗>(302, 3)(○は[女更]⁽⁸⁾)

養韻

46) 罔罔罔○○○○○<…俗作罔非是…>(361, 13)
⇒広韻, 罔<…俗作罔…>(312, 9)

厚韻

47) 斗<…俗作 P 非是…>(380, 6)
⇒広韻厚韻, 斗<…>P<俗>(325, 10)

去声

寘韻

48) 刺<…俗作 Q 非是…>(402, 11)
⇒広韻, 刺<…>Q<俗>(347, 6)

至韻

49) 涙<…俗作 R 非是>(411, 3)
⇒広韻, 涙<…俗作 R>(351, 3)

御韻

50) 處<…俗作 S 非是…>(423, 10)
⇒広韻, 處<…>S<俗>(363, 10)

莫韻

51) 顧○<…俗作 T 非是…>(431, 8)
⇒広韻暮韻, 顧<…>T<俗>(368, 5)

霽韻

52) 閉<…俗从下非是…>(433, 4)
⇒広韻, 閉<…>閉<俗>(373, 6)

53) 繼<…俗作繼非是>(436, 11)
⇒広韻, 繼<…俗作繼>(372, 8)

泰韻

54) 柰<…俗作 U 非是…>(446, 6)
⇒広韻泰韻, 柰<…俗作 U…>(380,

- 4)
卦韻
55) 畫<…俗作 V 非是…> (450, 7)
⇒広韻, 畫<…俗作 V…> (383, 9)
- 怪韻
56) 怪傀<…俗作恠非是…> (452, 1)
⇒広韻, 怪<…>恠<俗> (384, 8)
- 換韻
57) 亂○○○○<…俗作乱非是…>
(481, 3)
⇒広韻, 亂<…俗作乱…> (403, 9)
- 嘯韻
58) 糶<…俗作 W 非是…> (495, 7)
⇒広韻, 糶<…>W<俗> (412, 5)
- 笑韻
59) 笑咲○<…俗作 X 非是…> (497, 2)
⇒広韻, 笑<…>X<俗> (413, 6)
- 号韻
60) ○暴○○<…俗作曝非是…> (503, 8)
⇒広韻, 暴<…>赧<上同…>曝<曝乾俗> (418, 3)
- 證韻
61) 稱<…俗作秤非是…> (523, 10)
⇒広韻, 稱<…俗作秤…>秤<俗>
(433, 6)
- 宥韻
62) 廐○<…俗作廐非是> (526, 9)
⇒広韻, 廐<…俗作廐> (434, 8)
- 候韻
63) 鬪<…俗作鬪非是…> (533, 1)
⇒広韻, 鬪<…>鬪<俗> (438, 8)
- 入声
屋韻
64) ○○<…俗作 Y 非是> (548, 13)
⇒広韻, ○<…>Y<俗> (450, 4)
- 燭韻
65) 屬<…俗作属非是> (560, 7)

- ⇒広韻, 屬<…>属<俗> (461, 2)
- 66) 屬<…俗作属非是> (561, 1)
⇒広韻, 屬<…>属<俗> (462, 1)
- 質韻
67) 匹<…俗作疋非是…> (571, 11)
⇒広韻, 匹<…俗作疋…> (469, 1)
- 68) 密○<…俗作 Z 非是…> (572, 12)
⇒広韻, 密<…俗作 Z…> (472, 3)
- 麥韻
69) 麥<…俗作麦非是…> (632, 5)
⇒広韻, 麥<…俗作麦…> (513, 4)
- 以上, 69例である。ただし, 30) と61)・65) と66) は文字としては同一であろう。また, 29) では2字を「俗」とする。そのため, 実際に対応する文字としては68字となる。

2.2

②『集韻』「非是」が『広韻』の「俗」以外に対応する例。

平声

之韻

- 1) 菑𪔐<…俗作 A 非是…> (46, 3)
⇒広韻, 菑<…>𪔐<上同…>A<亦同> (62, 2)

魚韻

- 2) 虚○<…俗作虚非是…> (56, 11)
⇒広韻, 虚<…> (69, 5)

虞韻

- 3) 揄○<…一曰邪揄手相弄…俗作 B 非是> (73, 11)
⇒広韻, B<邪 B 舉手相弄…>揄<揄揚詭言也又動也…> (76, 6)

模韻

- 4) 麤○○<…俗作麤𪔐皆非是…> (75, 6)
⇒広韻, 麤<…>𪔐<…亦作麤> (85, 10)
- 5) 粗犗<…物不精也…俗作 C 非是>

(75, 7)

⇒広韻, C<米不精也>輞<公羊傳曰
輞者曰侵精者曰伐> (86, 1)

灰韻

6) 回回違韋<…俗作迴非是…> (93, 12)
⇒広韻, 回<違也轉也邪也…>○<逆
流>迴<還也> (96, 5)

眞韻

7) 份彬<…俗作斌非是…> (103, 13)
⇒広韻, 彬<…說文云古文份也…>斌
<上同>份<說文曰文質備也>
(106, 3)

文韻

8) ○熏<…俗作燠非是…> (114, 10)
⇒広韻, 熏<…>燠<上同> (111, 6)

先韻

9) 顛<…俗作 D 非是…> (139, 9)
⇒広韻, 顛<…>D<上同> (134, 10)

僊韻

10) 船<…俗作舩非是…> (150, 5)
⇒広韻仙韻, 船<…>舩<上同> (141,
4)
⇒広韻江韻, 舩<○舩船兒> (40, 1)

爻韻

11) ○<秦艸藥艸俗作芄非是> (163, 6)
⇒広韻肴韻, 芄<秦艸藥名> (152, 5)

麻韻

12) 覩<…一曰覩縷委曲俗从爾非是>
(179, 1)
⇒広韻, 覩<覩縷委曲> (163, 5)

耕韻

13) E<…俗作 F 非是> (209, 7)
⇒広韻, F<爾雅云存存 FF 在也…本
亦作萌又 E> (188, 2)

青韻

14) 粦<…俗作 G 非是> (213, 8)
⇒広韻, G<…> (195, 4)

登韻

15) 萌 E<…俗作 F 非是> (223, 1)

⇒広韻, F<爾雅云存存 FF 在也>
(201, 6)

⇒広韻耕韻, F<爾雅云存存 FF 在也
…本亦作萌又作 E> (188, 2)

侯韻

16) 衰襃白<爾雅聚也…俗作衰非是>
(236, 10)

⇒広韻, 衰<…> (215, 6)

⇒広韻宥韻, 衰<服飾盛貌> (437, 2)

侵韻

17) 侵<…俗作 H 非是…> (240, 8)

⇒広韻, 侵<…說文作○…>H<上同
> (216, 8)

覃韻

18) 耽<…俗作耽非是…> (246, 5)

⇒広韻, 耽<…或作耽…> (222, 8)

鹽韻

19) 憇怙苦<…不和…俗作 I 非是> (253,
1)

⇒広韻, I<I○音不和也禮記作怙>
(226, 10)

上声

腫韻

20) ○<…俗作 J 非是…> (265, 2)

⇒広韻, ○<…俗作○…>J<上同>
(238, 2)

語韻

21) 舉舉<…說文對舉也…俗作 K 非是
…> (287, 7)

⇒広韻, 舉<…說文作舉…> (259, 2)

⇒広韻元韻, K<舉也丘言切二> (115,
7)

獮韻

22) ○撻拏<…俗作 L 非是> (339, 10)

⇒広韻彌韻, 拏<取也>L<上同>
(291, 8)

入声

屋韻

23) ○<博雅○○少也 俗作 M 非 是>
(546, 7)

⇒広韻, ○<○○死兒出廣雅>…M<
M○多也> (449, 7)

質韻

24) ○○<…俗作癘非是> (571, 5)

⇒広韻, 癘<癘築或作癘說文作○…>
(471, 3)

以上, 24例である。ただし, 13) と15) は文字としては同一であろう。そのため, 実際に対応する文字としては23字となる。

2.3

③『集韻』「非是」が『広韻』の類似する字体の文字に対応する例。

平声

虞韻

1) 雛鷓<…俗作 A 非是…> (71, 11)

⇒広韻, 雛<…俗作 a…> (78, 7)

談韻

2) 聃○<…俗作 B 非是> (249, 4)

⇒広韻, 聃<…>b<俗> (224, 7)

上声

緩韻

3) 亶單<…俗作 C 非是…> (323, 4)

⇒広韻早韻, 亶<…俗作 c…> (283, 9)

去声

證韻

4) 贍<…俗作剩非是> (523, 12)

⇒広韻, 贍<又音孕>剩<剩長也> (433, 1)

入声

屋韻

5) 肉<…俗作宀非是…> (554, 3)

⇒広韻, 肉<…俗作 d…> (456, 4)

屑韻

6) 閉<…俗作閉非是> (607, 3)

⇒広韻屑韻, 閉<…俗作 e…> (495, 4)

以上, 6例である。対応する文字はとして6字となる。

2.4

④『集韻』「非是」が『広韻』に対応のない例。

平声

東韻

1) 蟲<…俗作虫非是…> (13, 2)

⇒広韻, 蟲<…> (24, 8)

支韻

2) 麁<…俗作 A 非是> (25, 9)

⇒広韻, 麁<…> (47, 10)

3) 裨<…俗从言非是> (31, 3)

⇒広韻, 裨<…> (47, 5)

之韻

4) 溜<…俗作 B 非是> (46, 6)

⇒広韻, 溜<…古通用菑>62, 3)

5) 辭辭<…俗从舌非是> (48, 9)

⇒広韻, 辭<…>辭<上同…>辭<籀文> (61, 8)

6) 醫醫<…俗作 C 非是…> (51, 5)

⇒広韻, 醫<…>醫<上同> (62, 8)

微韻

7) 機<…俗作 D 非是…> (53, 8)

⇒広韻, 機<…> (65, 5)

虞韻

8) 驅毆毆<…俗作駟非是> (66, 3)

⇒広韻, 驅<…>毆<古文> (77, 3)

9) 需<…俗作 E 非是> (70, 1)

⇒広韻, 需<…> (75, 8)

10) 芻芻<…俗作 FG 非是…> (71, 1)

⇒広韻, 芻<…俗作芻…> (72, 9)

11) 嚮<…俗作 H 非是> (71, 2)

⇒広韻, 嚮<…> (72, 9)

12) ○<…俗作 I 非是> (71, 12)

⇒広韻, ○<…> (78, 7)

13) ○<…俗作 J 非是> (73, 11)

⇒広韻, ○<…> (78, 7)

模韻

14) 穌<…俗作甦非是> (75, 4)

⇒広韻, 穌<…> (84, 10)

15) 呉○<…俗从口从天非是> (80, 2)

⇒広韻, 呉<…> (83, 8)

齊韻

16) 叁齊○<…俗作齎非是…> (81, 2)

⇒広韻, 齊<…> (86, 8)

17) ○○<…俗作 K 非是> (84, 3)

⇒広韻, ○<…亦作泥> (91, 6)

18) ○<…俗作 L 非是> (85, 4)

⇒広韻, ○<…> (90, 2)

灰韻

19) 燼<…俗作 M 非是> (95, 2)

⇒広韻, 燼<…> (97, 6)

哈韻

20) 開○<…俗从井非是…> (97, 9)

⇒広韻, 開<…亦作闕> (98, 10)

21) 台能<…俗作 N 非是> (98, 13)

⇒広韻, 台<…> (100, 8)

22) 臺○○<…俗作臺非是…> (99, 3)

⇒広韻, 臺<…> (99, 3)

真韻

23) 眇○<…俗作 O 非是> (101, 3)

⇒広韻, 眇<…> (101, 5)

24) ○塵○○○<…俗作 P 非是> (105,

4)

⇒広韻, 塵<説文本作○…> (104, 4)

桓韻

25) 棺○<…俗作琯非是> (129, 2)

⇒広韻, 棺<…> (125, 5)

26) 曼<…俗作 Q 非是> (130, 11)

⇒広韻, 曼<…> (126, 10)

山韻

27) ○○<説文虎文…俗作 R 非是>

(134, 13) (R は {雨彬} ⁽⁸⁾)

⇒広韻諄韻, ○<虎文也俗作 S> (168,

9) (S は [虎彬] ⁽⁸⁾)

饜韻

28) 乾○○○<…俗作軋非是…> (147,

6)

⇒広韻仙韻, 乾<…> (142, 5)

29) 鐫○<…俗作 T 非是…> (149, 1)

⇒広韻仙韻, 鐫<…>○<古文> (140,

5)

30) 權<…俗从手非是…> (152, 1)

⇒広韻仙韻, 權<…俗作權…> (142,

9)

豪韻

31) ○<…俗作辜非是> (167, 12)

⇒広韻豪韻, 辜<…>辜<上同> (155,

3)

32) 逃跳<…俗作迺非是> (171, 6)

⇒広韻, 逃<…> (157, 7)

麻韻

33) 瓜<…俗作菰非是…> (185, 10)

⇒広韻, 瓜<…> (166, 1)

青韻

34) ○靈 霽○○<…俗作 U 非是…>

(215, 5)

⇒広韻, 靈<…>霽○<並古文>○<…與靈同> (195, 6)

登韻

35) 騰<…俗作 V 非是…> (222, 3)

⇒広韻, 騰<…> (201, 10)

尤韻

36) ○<…俗作 W 非是> (227, 10)

⇒広韻, ○<…> (210, 1)

37) ○<…俗作週非是> (231, 8)

⇒広韻, なし

覃韻

38) 蠶<…俗作蚕非是…> (247, 4)

⇒広韻, 蠶<…俗作蚕非…> (222, 6)
上声

董韻

39) 總摠摠摠○<…俗作捻非是…> (263, 9)

⇒広韻, 總<…>摠<上同>惣<俗>
(236, 7)

止韻

40) 柿<…俗作柿非是> (282, 5)

⇒広韻, 柿<果名> (253, 6)

語韻

41) ○<…俗作 X 非是> (287, 8)

⇒広韻, ○<…> (259, 3)

42) 糶<…俗作 Y 非是> (289, 1)

⇒広韻, 糶<…> (258, 7)

齊韻

43) 體體<…或从身俗作躰非是…> (299, 13)

⇒広韻, 體<…>躰<俗> (268, 8)

準韻

44) ○○<…俗作胸非是> (309, 7)

⇒広韻, ○<…> (278, 3)

混韻

45) ○○<…俗作 Z 非是> (319, 1)

⇒広韻, ○<…> (282, 7)

皓韻

46) 燥<…俗作 Γ 非是> (350, 1)

⇒広韻, 燥<…> (302, 3)

去声

御韻

47) 據<…俗作 Δ 非是…> (422, 9)

⇒広韻, 據<…> (361, 10)

遇韻

48) 驅<…俗作駟非是…> (425, 5)

⇒広韻, 驅<…> (366, 9)

莫韻

49) 作<…俗作做非是…> (429, 12)

⇒広韻暮韻, 作<…> (370, 7)

霽韻

50) 婿婿○<…俗作聲 Θ 非是> (432, 9)

⇒広韻, 婿<女夫> (372, 5)

綾韻

51) 羨<…俗作 Λ 非是…> (490, 8)

⇒広韻線韻, 羨<…> (411, 8)

52) 變○○<…俗作 Ξ 非是…> (494, 8)

⇒広韻線韻, 變<…> (410, 10)

笑韻

53) ○○<…俗作 Σ 非是> (498, 3)

⇒広韻, なし

禡韻

54) 杷欄○<…俗从手非是> (508, 10)

⇒広韻, 杷<…> (424, 2)

驗韻

55) 劔劔<…俗作劔非是…> (541, 12)

⇒広韻梵韻, 劔<…> (446, 4)

入声

屋韻

56) 燾<…俗作 Π 非是> (549, 9)

⇒広韻沃韻, 燾<…> (459, 10)

57) ○<…俗作 Υ 非是> (554, 5)

⇒広韻, ○<…> (453, 10)

質韻

58) ○蜜○<…俗作 Φ 非是…> (572, 4)

⇒広韻, 蜜<…>○<上同> (470, 8)

沒韻

59) 卒<…俗作猝非是…> (586, 11)

⇒広韻, 卒<…> (482, 9)

咎韻

60) 席○<…俗作 Ψ 非是…> (637, 5)

⇒広韻昔韻, 席<…> (518, 10)

錫韻

61) ○○<…俗作 Ω 非是> (642, 2)

⇒広韻, ○<…>○<上同> (524, 1)

62) 覩覩覩<…俗作覩非是…> (642, 13)

⇒広韻, 覩<…>覩<上同…> (523, 2)

以上、62例である。ただし、10) では2字を「俗」とする。そのため、実際に対応する文字としては63字となる。

3.

2節で確認した①②③は、『集韻』で「非是」とされた文字が、何らかの形で『広韻』に対応のある例である。これに対し④は、『広韻』に対応のない例である。もちろん、それぞれに問題がないわけではない。例えば②として扱った『広韻』「虚」(平声魚韻69, 5)も、原『広韻』では『集韻』と同様に「虚」であった可能性もある。現在目にするのできる『広韻』あるいは『集韻』が、原作での字形をどれほど正しく伝えているかは不明であり、誤写・誤刻の可能性も考えられるからである。さらに、誤写・誤刻ではないものの、原作の字形がある時代、ある地方で規範的と考えられた字形に置き換えられた可能性も考えられよう。そのため、これらの用例数には、多少の変動があると思われる。それにしても前節①②③の合計は99例なのである。すなわち、『集韻』「非是」の161例中の約6割が、何らかの形で『広韻』に対応していることになる。

前節①の69例は、『広韻』で「俗」とされた文字が、『集韻』で「非是」として対応している例である。さらに、『広韻』にはこの69例以外にも「俗」とされた文字が251例ある。これらの『集韻』での対応関係は次のとおりである。なお、煩雑さを避け全例を示すことはしない。

- ①『広韻』「俗」が『集韻』の「或作」「或从」に対応する例。 127例
 蛇<…>虵<俗> (平声支韻41, 9)
 ⇒集韻, 蛇虵迤<或作虵迤> (32, 6)
- ②『広韻』「俗」が『集韻』の別の文字として対応する例。 26例

A<…亦作萑俗作萑…> (平声桓韻123, 8)

- ⇒集韻, A萑<…> (128, 4)
- ⇒集韻, 芑萑<…爾雅作萑> (128, 3)
- ⇒集韻, 萑鶴<…> (129, 3)
- ⇒集韻, 萑<…> (129, 4)

③『広韻』「俗」が『集韻』の「亦作」「亦从」に対応する例。 9例

氛<…>B<俗> (平声文韻110, 7)
 ⇒集韻, 氛雰B<…或从雨亦作B> (113, 11)

④『広韻』「俗」が『集韻』の収録文字として対応する例。 6例

亨<…俗作烹…> (平声庚韻185, 8)
 ⇒集韻, 烹亨盲○○<…或作亨古作盲○○> (203, 6)

⑤『広韻』「俗」が『集韻』の類似する字体の文字に対応する例。 3例

<…俗作疎…> (平声魚韻69, 3)
 ⇒集韻, ○○疎疎<…或作○疎疎…> (59, 7)

⑥『広韻』「俗」が『集韻』の「古作」に対応する例。 2例

率<…俗作攀…> (入声質韻471, 9)
 ⇒集韻, 率攀<…古作攀…> (570, 3)

⑦『広韻』「俗」が『集韻』の「隸作」に対応する例。 1例

惡<…>C<俗> (入声鐸韻507, 4)
 ⇒集韻, 惡C○<…隸作C或从人…> (625, 9)

⑧『広韻』「俗」が『集韻』に対応のない例。 77例

爲<…>為<俗> (平声支韻41, 10)
 ⇒集韻, 爲D<…古作D…> (35, 8)

もちろん、これらの用例数も2節での用例数と同様に、多少の変動があると思われる。それにしても、『広韻』で「俗」とされたこれらの251例は、『集韻』では「或作」等と

され、「俗」として扱われていないのである。ただし、『集韻』で「俗」という扱いが無いわけではない。それは、次の2例である。

E 𪗇<鬼俗或从幾> (平声微韻55, 9) (Eは {幾鬼}⁽⁸⁾)

訖訖E<…或从也俗从他…> (平声戈韻178, 8) (Fは [言他]⁽⁸⁾)

もっとも、この2例も『広韻』では次のようになっている。

E<鬼俗> (65, 2)

訖<…>F<俗> (162, 2)

そのため、この2例も原『集韻』の注記では「非是」とあった可能性も想定される。ただし、この2例が原『集韻』での本来の注記であったとしても、『集韻』で「俗」とされた文字は、この2例と「俗作某非是」等とされた161例だけなのである。このことは、『集韻』では、その収録文字に対し「俗」という扱いを基本的には認めていないとしてよいと思われる。すなわち、『集韻』での「俗」という扱いは、基本的には「非是」という否定的な扱いの中で用いられていることになる。

4.

『広韻』で「俗」とされたものは2節で扱った『集韻』の「非是」に対応する①の69例と、3節で扱った251例との合計320例である。この320例のうち、約7割5分にあたる243例が、「非是」として『集韻』に対応するか、「或作」等として『集韻』に対応していることになる。すなわち、『広韻』の編者と『集韻』の編者との文字に対する認識はかなり一致しているものと考えてよいであろう。これは、制作年代も制作目的も『集韻』とは異なるものの、『干祿字書』⁽⁹⁾の収録文字と2節の『集韻』で「俗作某非是」等とされた161例中の160字とを対比すれば明らかである。

『集韻』で「非是」とされた160字の『干祿

字書』での対応関係は次のとおりである。

①『集韻』「非是」が『干祿字書』の「俗」に対応する字。 22字

②『集韻』「非是」が『干祿字書』の「通」に対応する字。 21字

③『集韻』「非是」が『干祿字書』の「正」に対応する字。 1字

④『集韻』「非是」が『干祿字書』に対応しない字。 116字

すなわち、『集韻』で「非是」とされた文字と『干祿字書』の収録文字とは、7割以上も一致しないのである。このことから、『広韻』の編者と『集韻』の編者との文字に対する認識はかなり一致していると考えてよいと思われる。『広韻』の編者と『集韻』の編者との違いは、それらの文字をどのように解釈するかなのである。

以上の点から、『集韻』の「俗作某非是」等の注記は、ことさらに「非是」であることを明示するための注記であると考えたい。前に述べたとおり、規範的な辞書(字書)を目的とするならば、誤りであることが確実な(「非是」)文字は収録しなければよいのである。たとえば、『広韻』で「爲<…>為<俗>」(平声支韻41, 10)とした「為」を『集韻』では収録していない。もちろん、この文字が趙振鐸『集韻研究』でいう「有相當的羣衆基礎」の文字であるにしても、収録しないことにより正しい文字ではないことを示すことができる。実際に、『広韻』を増補・改訂したとされる『集韻』では、『広韻』で「俗」とされた77例が収録されていない。ただし、『広韻』で「俗」等とされた99例は、『集韻』では「非是」として採録されている。以上の点から、『集韻』で「俗作某非是」等とその字形を表示しつつ、さらに「非是」と否定することには、『集韻』の編者の収録する文字についての明白な立場が感じられる。すなわ

ち、『集韻』は、少なくとも文字の扱いについては、『広韻』と異なった新たな規範を提示することを目的としていたものと考えられる。そして、『広韻』とは異なった新たな規範の韻書であることを明示するために、ことさらに「俗作某非是」等と注記する必要があるものと考えたい。もちろん、このような文字について『広韻』とは異なった新たな規範を提示するという目的が成功したかどうか、またその新たな規範が広く認知されたかどうかは別の問題となる。さらに、『広韻』とは異なった新たな規範を提示するという『集韻』の目的が、単に文字の認識だけであったのかどうかについても検討が必要であろう。もちろん、『集韻』で「俗作某非是」等とされた文字で、『広韻』で対応する文字は97字であり、残りの『広韻』に対応のない63字がどのような素性の文字なのか、今後の問題として残されていることはいうまでもない。

注0 この論文は、2010年9月15日に紀要用の論文として投稿したものを改稿したものです。前回は、使用している漢字のいくつかが空白となり、正しく表示されないため掲載を諦めました。ただ、何とも心残りであり、改めて投稿しました。ただし、前回のままの原稿では、前回と同様、漢字のいくつかは空白となり、正しく表示されないと思われる、使用する文字を次のように改めました。

- 1) 文字種をJIS第一・第二・第三・第四水準、及び補助漢字に限定しました。
- 2) どうしても必要な文字は、作字することで対応しようと考えています。
- 3) 1)・2) 以外の漢字は、○として扱うこととしました。
- 4) ただし、論旨に関わる文字で表示できない文字は、A・B また Γ・Δ などの大文字で対応

関係を示しました。

- 5) 同様に、論旨に関わる文字で表示できない類似の字体の文字は、a・bなどの小文字で対応関係を示しました。
- 6) さらに、1)・2) の対応でも表示できない文字があれば、その文字は、すべて■として表示しようと考えています。
- 7) なお、6) の注記は、文字が正しく表示されていても残すことにします。
- 8) さて、どうなるのか、今現在この注0を書いている私自身も気になっています。
- 9) この注0は、2016年10月24日に書いたものです。

注1 治平三年(1066)との説もある。

注2 水谷誠『『集韻』の増補について』(『創大中国論集』8, 2005年)など。

注3 顔森『廣集韻譜』(江西人民出版社, 2005年)では、『広韻』と『集韻』との文字を対比させている。ただし、『廣集韻譜』では増補の文字は知ることはできるが、削除の文字は知ることはできない。

注4 『集韻』は嘉慶十九年顧廣圻重修本(中文出版社)による。また所在は中文出版社『集韻』での(頁数, 行数)として示す。なお、双行注記部分は<>内に示し、直接論旨に関わらない部分は…として省略する。

注5 『広韻』は張氏沢存堂本(藝文印書館)による。また所在は藝文印書館『広韻』での(頁数, 行数)として示す。なお、引用等は注4に同じ。

注6 趙振鐸『集韻研究』(語文出版社, 2006年)。

注7 『集韻』と『広韻』との韻目名が同じときはその韻目名を示さず、異なるときはその韻目名を示す。

注8 字形を []・|| 内の漢字2字で示す。[] は横並び、|| は縦並びとする。

注9 『干祿字書』は文化十四年刊(官版)(杉本つとむ編『異体字研究資料集成別巻1』雄山閣出版, 1975年)による。